

## 事業所名 グループホーム小町

## 運営推進会議等開催報告書

開催日時 令和 6年 8月 23日（金）14時00分～14時40分		
参加者		議題
利用者	0名	1 行事報告
利用者家族	0名	2 今後の行事報告
地域住民の代表者	1名	3 利用者様状況報告
市職員	1名	4 身体拘束適正化検討委員会の議題について
地域包括支援センター職員	1名	5 質疑応答
事業所	3名	6 次回会議開催予定日
会議録		
<p><b>1. 行事報告</b></p> <p>《7月》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5日に七夕まつりを行いました。近隣の保育園の園児たちが作った七夕の短冊を飾った笹の葉をプレゼントして頂きました。</li> <li>・18日に七夕のお返しとしてグループホーム小町の利用者様と職員がお礼のお手紙を作成して保育園児へお渡しをしました。</li> <li>・29日に利用者様のお誕生日会を行いました。ご家族様も来訪され、盛大にお祝いをすることができました。利用者様や家族様にとっても喜んで頂きました。</li> </ul> <p>《8月》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・8日に夏祭り行事を行いました。屋台風のメニュー看板や折り紙をつかった作品を壁に飾ったり、からあげや焼きそば、フランクフルトなどの食事を提供、また盆踊りの音楽を流してお祭りのはっぴを着て楽しむなど、お祭りの雰囲気を出して有意義な時間を体験して頂きました。</li> <li>・19日に訪問理美容を行いました。きれいさっぱりして頂きました。</li> </ul> <p><b>2. 今後の行事予定</b></p> <p>《9月》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者様のお誕生日会を行う予定です。</li> <li>・避難訓練を行う予定です。</li> <li>・敬老の日にお祝いをする予定です。</li> </ul> <p><b>3. 利用者様状況報告</b></p>		

- ・利用者様 9 名（男性入居者 1 名 女性入居者 8 名）  
平均年齢 88 歳（最低年齢者 82 歳）（最高年齢者 97 歳）  
平均要介護度 2.78

#### 4. 身体拘束適正化検討委員会の議題について

##### 議題

「不穏・興奮・不眠・暴力における身体拘束を行わないための介護」

不穏・興奮は認知症の方によくみられる症状で、暴力行為の他、いろいろな問題症状や介護事故の引き金になります。不穏・不眠・暴力行為は、身体的な病気や原因と共にケア不足、失敗が影響する場合もあります。また、その背景に、不快感・心細さ・孤独・不安・不満・恐怖のような気持ち・ストレスといった私たちにも理解できる心理や、思い違いや錯覚・幻覚・せん妄・妄想のような認知症に伴う精神症状が存在している場合があります。身体的な疾患や精神的な症状については、それぞれ専門医と相談しながら治療しますが、ある部分ではスタッフ側のケアや環境を調整することで、改善や軽減の効果があったり、逆にスタッフのケアが悪いと悪化することもあります。その為、不穏や暴力があるからといって精神薬を過剰に投与したり、縛ったり閉じ込めたりすることは身体拘束となるので行ってはいけません。

##### ① 心理的アプローチ

まず利用者の気持ちや状態をよく知ることが大事です。人間は寝ているとき以外、記憶に頼って生きています。情報と記憶を手掛かりに予測し理解し行動しています。情報の記憶は生活の基盤です。認知症はこの基盤を障害される病気です。古い記憶は比較的保たれますが、ついさっきの事は忘れてしまいます。なので、出来事を予測したり、理由を理解することが正しく判断できなくなり、いろいろな出来事が唐突に目の前に現れ、対処を迫られ、そしてまたすぐに消えてしまいます。また見当識という日にちや時間、場所や人物などの認識も低下します。これらの基盤がところどころで脱落、あやふや、すっぽりとなくなっていたり、ふるい記憶で補ったりします。重度になると古い記憶も失ってしまう事もあります。なので、認知症になると不安やストレス、混乱の可能性は常に存在します。認知症の方は多かれ少なかれ現実との違和感、不適応感を抱きやすくなります。また、生活が断片的でころもとなない印象になってしまいます。ケアのポイントは利用者が少しでも落ち着けるような、不安や焦りを感じなくて済むようなかわり方をすることです。「ここは楽しい」「この人は優しい人だ」など、利用者が安心して落ち着くことができるかわり方を徹底します。人間として生きていくのに大切な、感情的な部分の判断力や記憶力は残されていることが多くあります。また繰り返すことでおぼろげながら印象や雰囲気も記憶されることもあります。

職員の関わり方としては、あいさつ、スキンシップ、明るい声かけ、身体面からのケアを基本にしてなじみの関係を作る、役割を持ってもらうなど、居心地の良い空間づくりを行うことです。怒りや暴力がひどい時は正面から対応するだけでなく、利用

者の気持ち、行動パターンを利用して目先を変えます。散歩などで気分転換を図ったり、介助者を変えてみたり、誰も被害がなさそうなら少し離れて様子を見て落ち着いたら声かけをしてみるなどの対応も必要です。

## ② 清潔や排泄や食事

清潔や排泄ケアや食事の介助が満足でないとイライラや不穏の原因となります。食事がしっかり摂れていないと脱水・せん妄の原因にもなります。また日中の活動量が少なかったり、退屈、過剰な運動による疲労、怒りなどがあると、不眠の原因になります。かわり方は否定や議論をしないことです。強い抑制やつられて興奮する事態はさけ、話をよく聞き、不安や怒りなどがあれば気持ちを理解します。スタッフが急に手を伸ばしたり、身体に触れたりすると攻撃を受ける様に錯覚をし、興奮することがあります。

### まとめ

不穏や興奮による暴力によって加害・被害が生じる問題は認知症のある方同士の間によく発生します。認知症の利用者による暴力は、一般に言う暴力や利用者同士のトラブルというよりも、認知症の症状の一つとして理解すべきです。不穏や興奮、暴力行為をなぜ行うのか、どういう時にそうなるのかなどをしっかりと考え、原因を追究し、取り除くことによって軽減をしたり、なくすことができると思います。またしっかりしたケアをすることにより、精神薬を過剰に投与したり、縛ったり、閉じ込めたりする身体拘束も行わなくなります。利用者の気持ちをよく理解し、「今どうしたいか」「何を求めているのか」「今までのその人の生活リズムをしっかりと把握できていたか」など、今一度見つめ直し対策を考え、改善に努めていくべきだと思います。グループホーム小町では今後も身体拘束を行わない介護を続けて参ります。

## 5. 質疑応答

### 質問①

身体拘束を行わないため実践していることを聞き、利用者様への接し方を徹底されていると感じた。もしこの方法を行っても不穏が続く時の対応方法、また職員によりこのような接し方ができていない時の指導はどうしているのか聞きたい。(ふたば包括支援センター様)

→ご質問ありがとうございます。利用者様自身がどうしても落ち着かない状況にあったときは、時間を置く、人を変える、視線をそらす(甘いものや音楽、本など提供する…)などをして少し引いて様子を見るようにしています。職員に対しては普段から「お・ひ・つ」の対応を徹底して指導している(お…怒らない、ひ…否定しない、つ…冷たくしない。)それでも不適切な対応等がもしあれば、その場その時間でなんとかしようとするのではなく、いったん離れて冷静になり、ゆったり対応できるよう職員間で声を掛け合い、チームで解決するようにしています。(グループホーム小町)

## 質問②

利用者様が攻撃的になった際の対応について話があったが、実際にどのような場面で起こったのか、具体的に聞きたい。(瀬戸市役所高齢者福祉課様)

→ご質問ありがとうございます。利用者様の中には言葉はうまく出てこないが、お話が好きな利用者様が他の利用者様に対して話しかけたが答えてくれず、相手に伝わらないことによるイライラとした気持ちから手をたたく、などの行動が認知症の周辺症状として出ることがあります。そういった際、どのような場面でもその行動が起こったのはなぜか、原因について職員間で申し送りの時、施設会議の時、または普段の仕事の中で毎回話し合うようにしています。原因や目的を探ることで解決や予防につながるためこれからも行っていきます。(グループホーム小町)

## 6. 次回会議開催予定日

2024年10月25日(金) 14:00～ 開催予定となります。

以上。